美幌町の地域経済分析について
(地域診断サービス)

2022年７月

日本商工会議所　地域振興部

日本商工会議所
The Japan Chamber of Commerce and Industry

地域とともに、未来を創る
since 1922
日本商工会議所100周年

目次

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

生産分析（産業構造） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

分配・支出分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

生産分析（観光） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

地域経済循環・推移傾向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

【参考】 統計情報について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

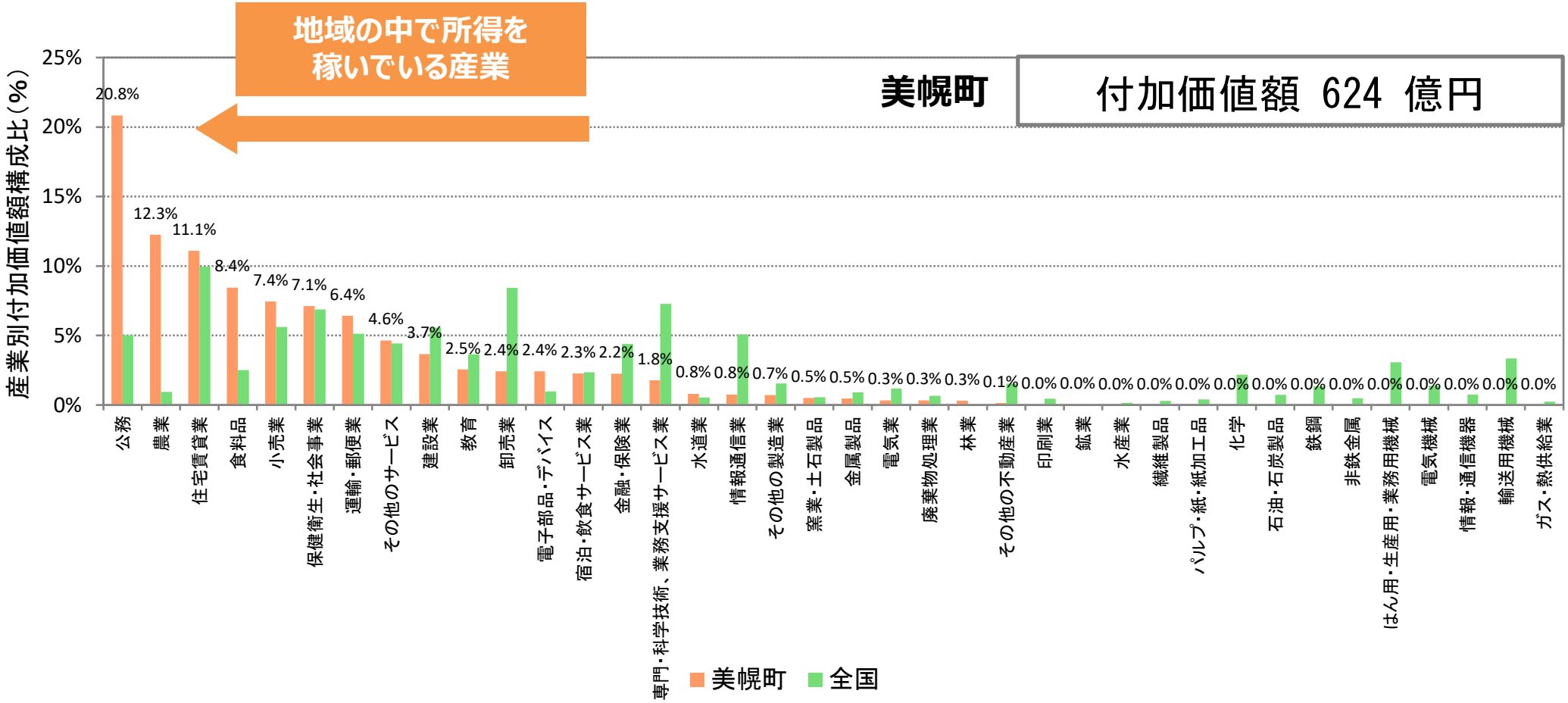
はじめに

生産分析（産業構造）

地域で所得(付加価値)を稼いでいる産業は何か

- 付加価値額が大きな産業は、公務、農業、住宅賃貸業、食料品で、これらの産業が地域を支えている。
- 付加価値額のうち、１次産業が12.6%、２次産業が16.3%、３次産業が71.2%を占める。
（全国平均：１次産業：1.1%、２次産業：26.6%、３次産業：72.3%）

産業別付加価値額



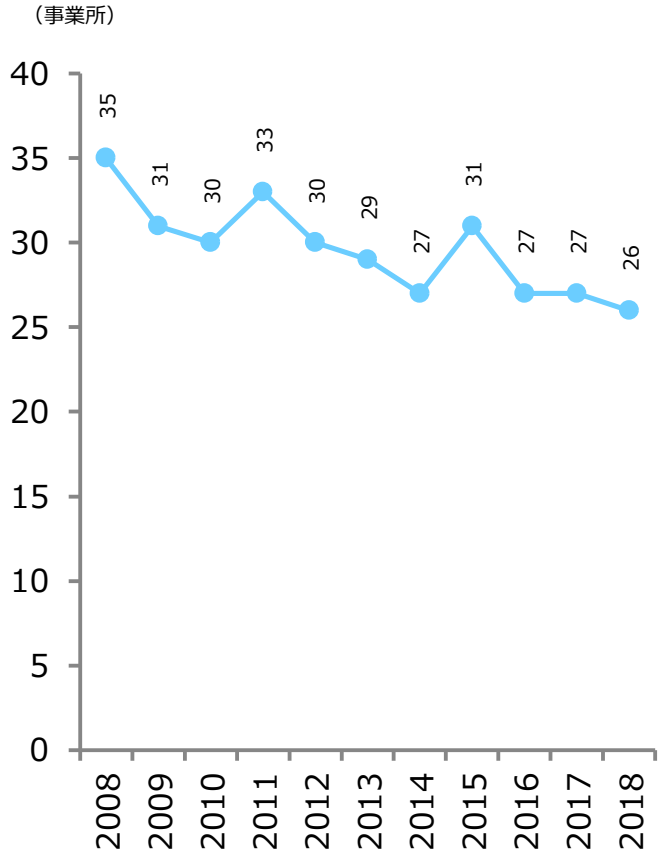
注)GDP統計の不動産業には帰属家賃が含まれており、地域経済循環分析用データの産業分類では第3次産業の住宅賃貸業に帰属家賃が含まれている。帰属家賃は、実際には家賃の受払いを伴わないものである。

出典：環境省「地域経済循環分析用データ」、総務省統計局「国勢調査」より作成

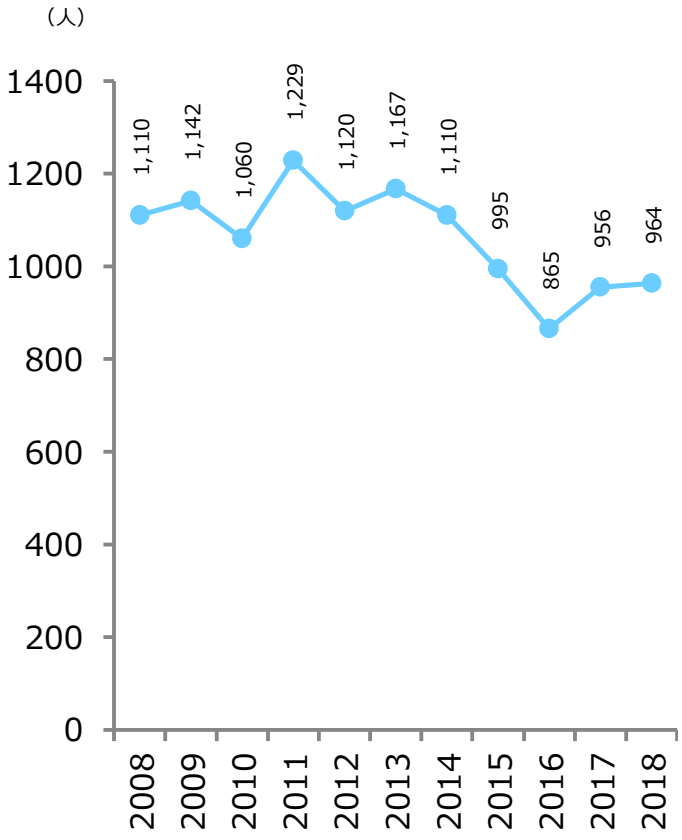
製造業事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移

- 製造業の事業所数は2011年、2015年に一時的に増加しているものの、全体的には減少傾向。
- 従業者数は2012年まで減少していたが、以降はほぼ横ばい。
- 製造品出荷額は、一時的に上下変動しつつも、全体的にはほぼ横ばいの傾向。

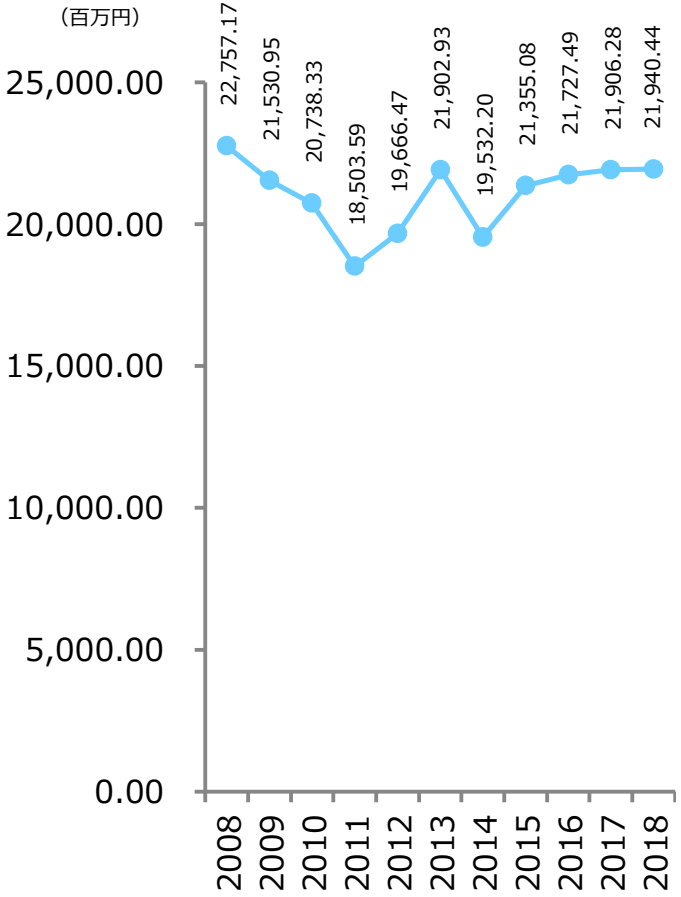
事業所数



従業者数



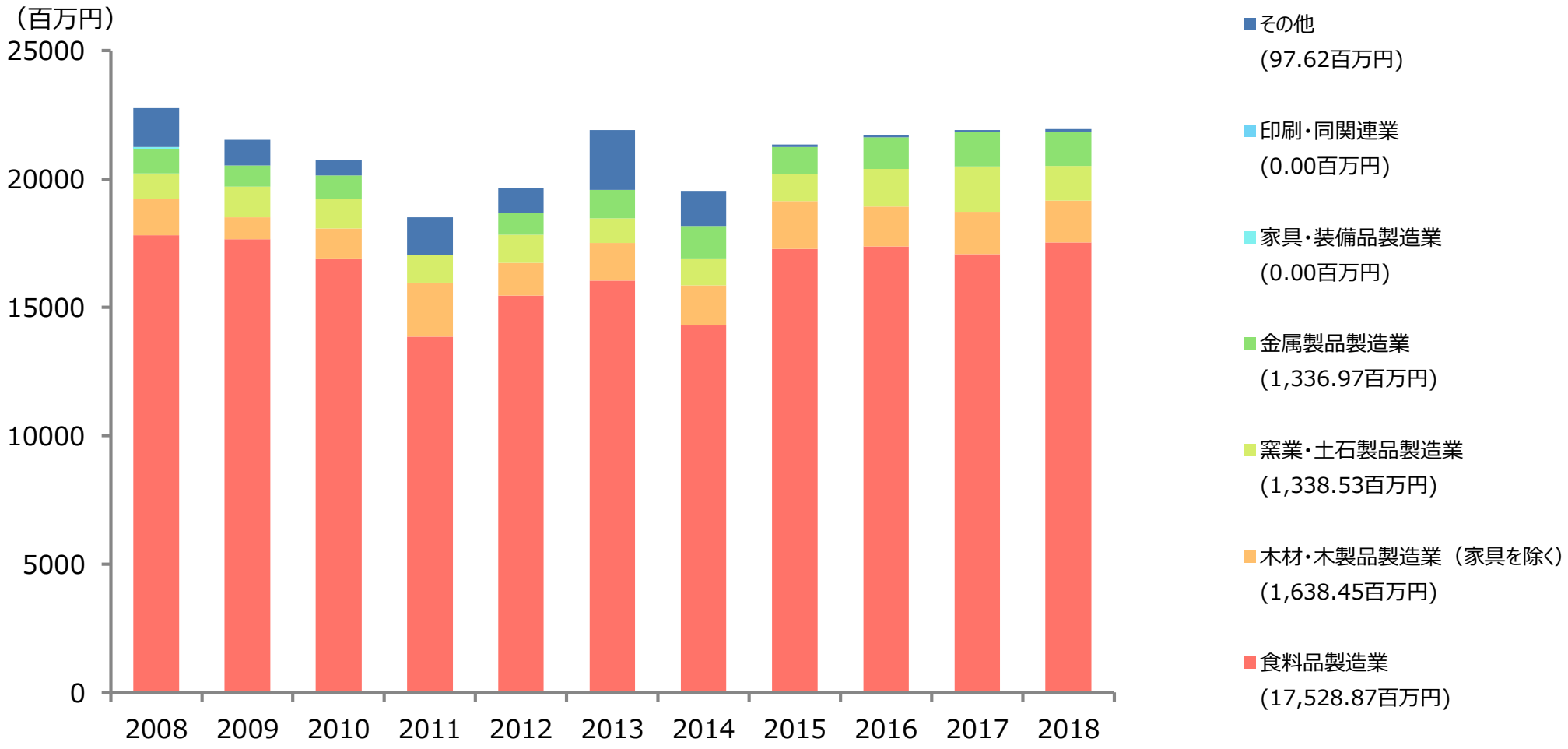
製造品出荷額等



出典：　経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」再編加工、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」
留意点：　従業員数4人以上の事業所が対象。

産業別製造品出荷額等の変化

■ 製造品出荷額の内訳は、食料品製造業が大部分を占める。
■ その他の製造業は減少している一方で、窯業・土石製品製造業はやや増加している。



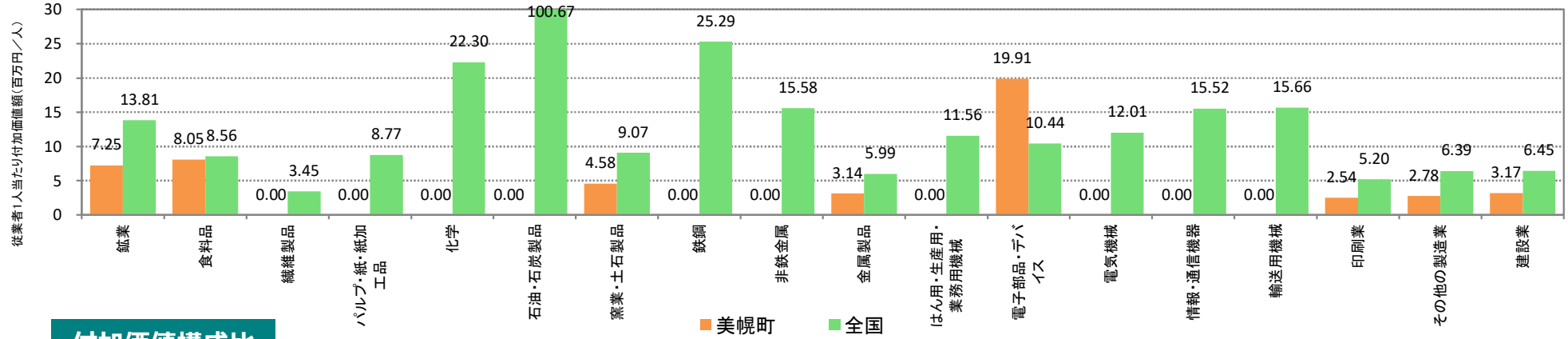
出典： 経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」再編加工、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」
留意点：凡例の数値は最新年の数値を指す。従業員数4人以上の事業所が対象。

２次産業の稼ぐ力(１人当たり付加価値額)

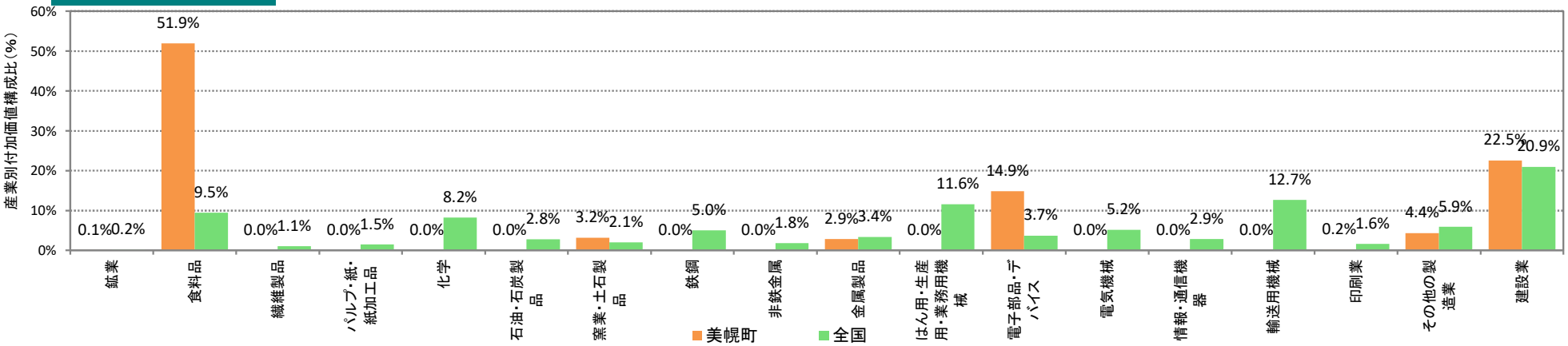
■ 美幌町では、第２次産業のうち食料品の付加価値構成比が最も高いが、労働生産性は全国よりも低い。次いで建設業の付加価値構成比が高いが、労働生産性は全国よりも低い。

第2次産業の産業別労働生産性及び付加価値の構成比

労働生産性



付加価値構成比

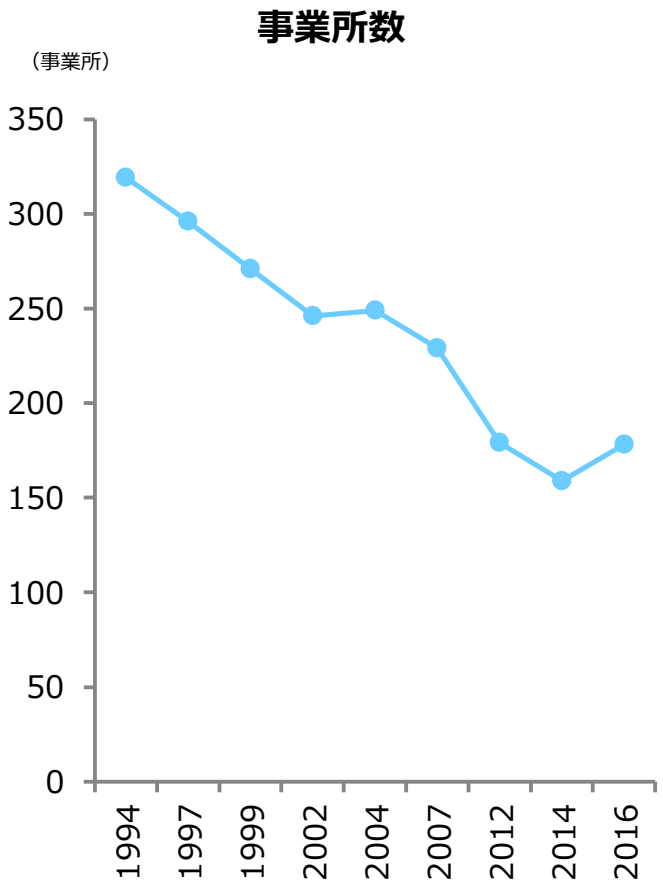


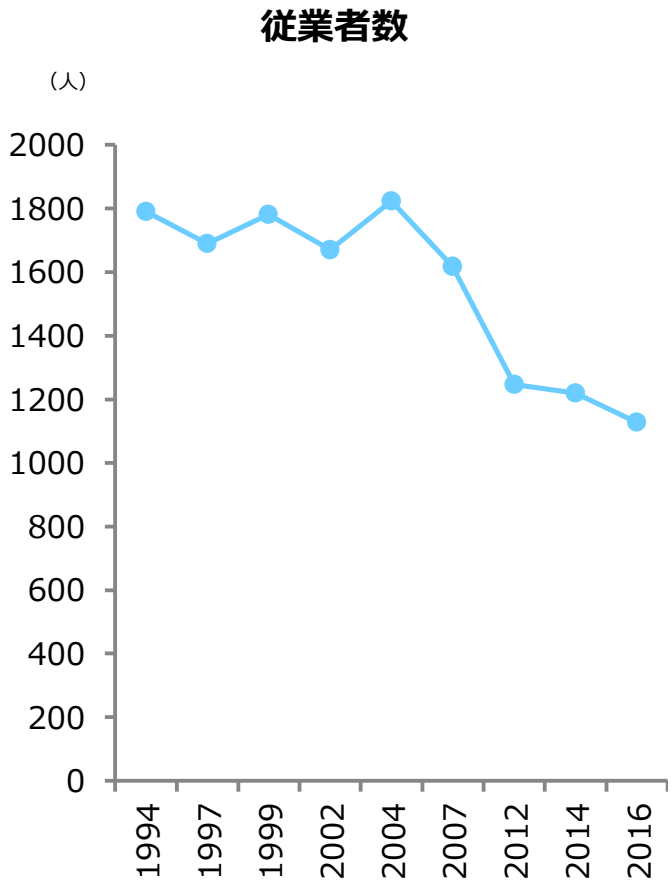
出典：環境省「地域経済循環分析用データ」、総務省統計局「国勢調査」より作成

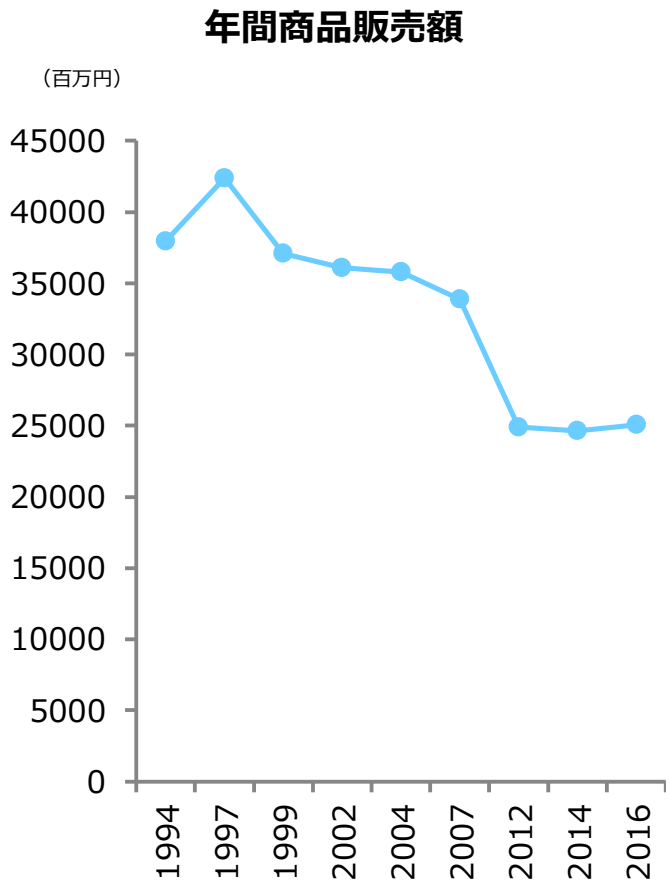
注)GDP統計の不動産業には帰属家賃が含まれており、地域経済循環分析用データの産業分類では第3次産業の住宅賃貸業に帰属家賃が含まれている。帰属家賃は、実際には家賃の受払いを伴わないものであるため、これを含む場合と含まない場合の2パターンで労働生産性を作成している。

小売業事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移

■ 小売業の事業所数、従業者数、年間商品販売額は減少傾向にあるが、おおよそ2012年に下げ止まった。



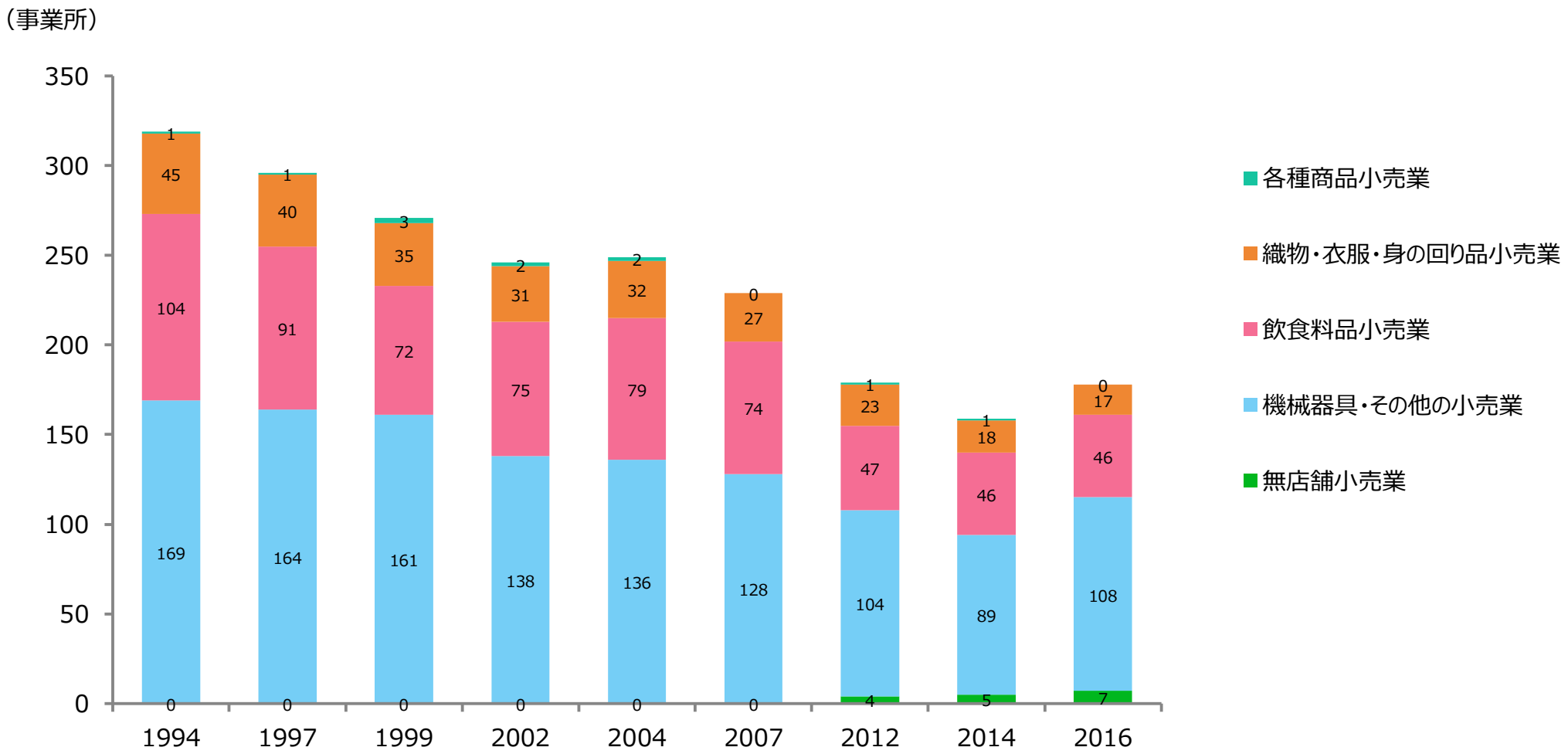




出典：経済産業省「商業統計調査」 総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」
注記： 2007年以降は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「商業統計調査」と「経済センサス－活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間(表示年)の比較が行えない。

産業別小売業事業所数の変化

- 小売事業者の内訳は、機械器具・その他小売業が最も多い。
- 1994年→2016年にかけて、最も減少幅が大きいのは、機械器具・その他小売業(▲61社)で、次いで、飲食料品小売業(▲58社)。



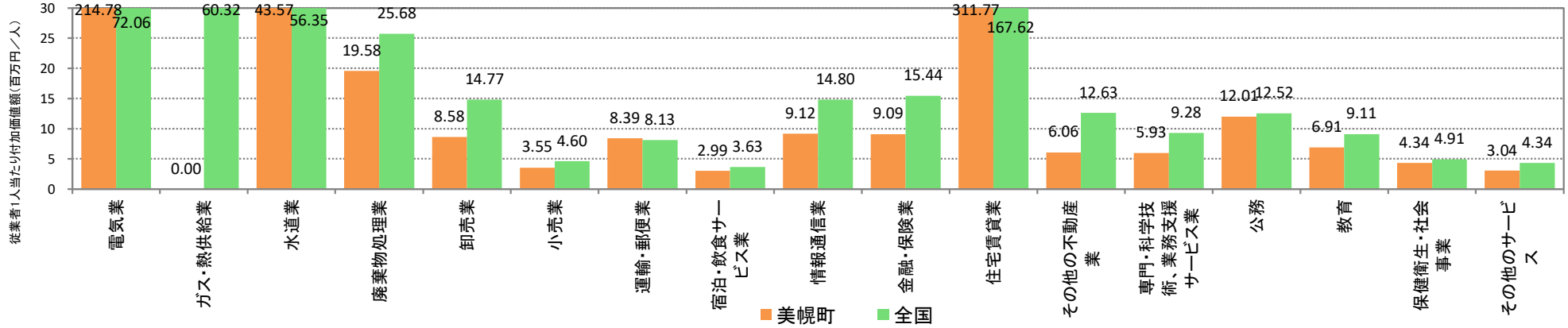
出典：経済産業省「商業統計調査」 総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」
注記： 2007年以降は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「商業統計調査」と「経済センサス－活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間(表示年)の比較が行えない。

３次産業の稼ぐ力(１人当たり付加価値額)

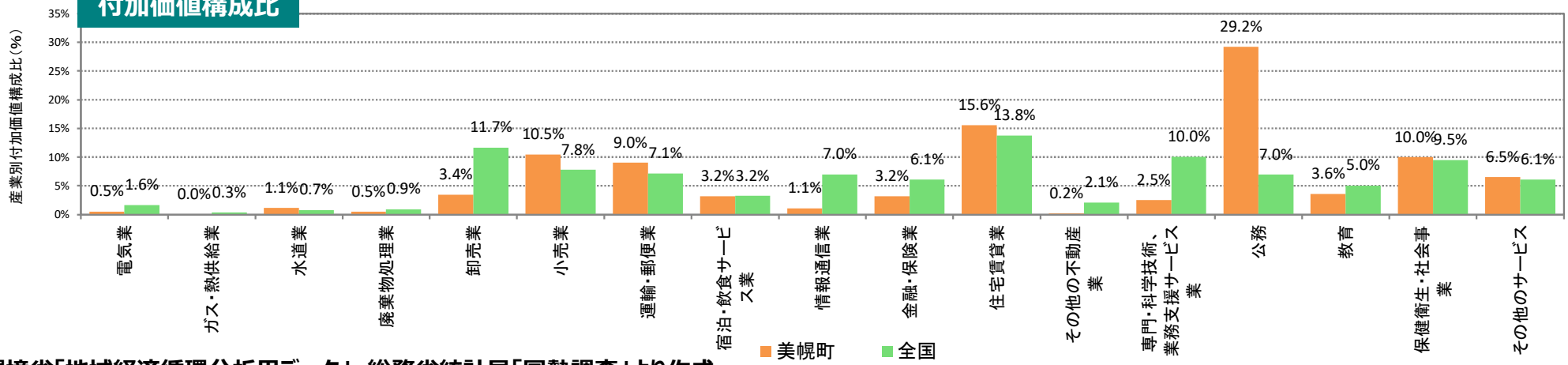
■ 美幌町では、第３次産業のうち公務の付加価値構成比が最も高いが、労働生産性は全国よりも低い。次いで住宅賃貸業の付加価値構成比が高く、労働生産性も全国より高い。

第3次産業の産業別労働生産性及び付加価値の構成比

労働生産性



付加価値構成比



出典：環境省「地域経済循環分析用データ」、総務省統計局「国勢調査」より作成

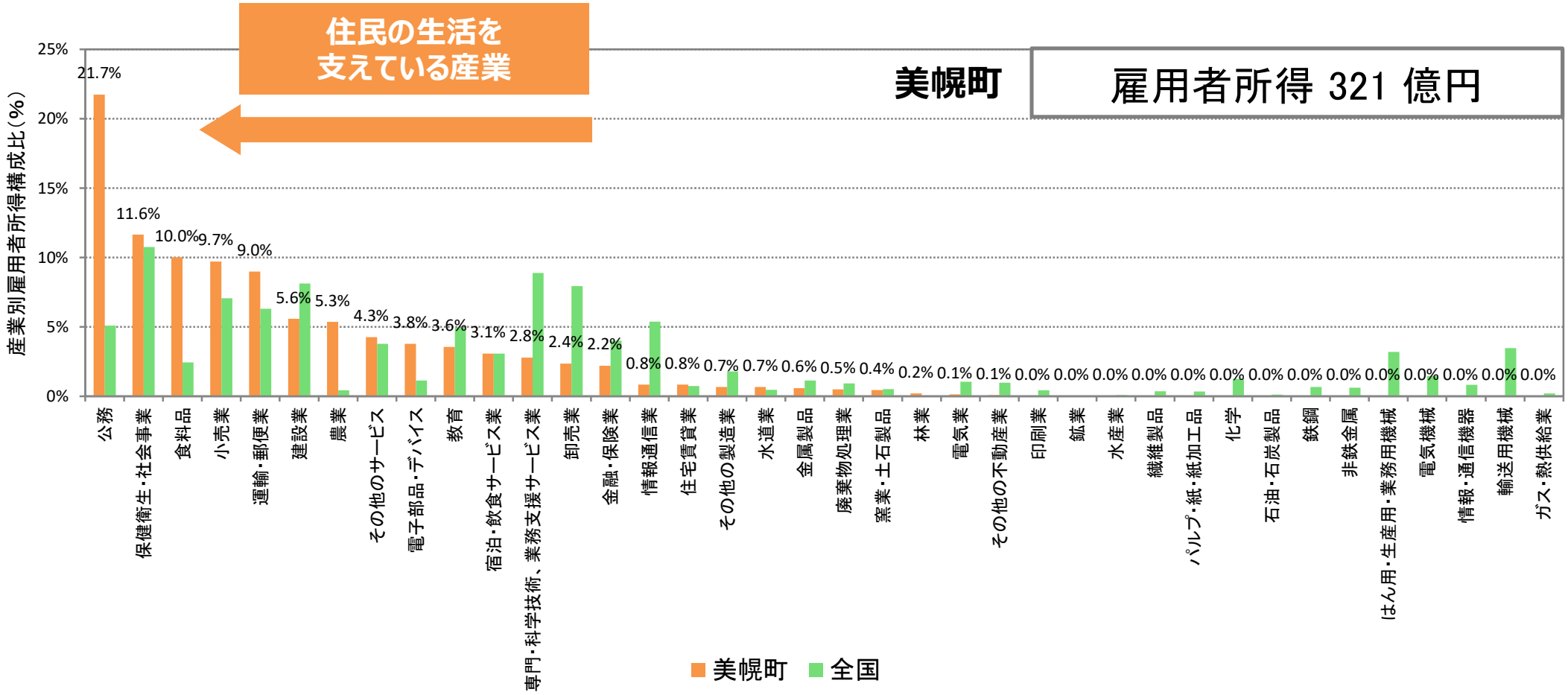
注)GDP統計の不動産業には帰属家賃が含まれており、地域経済循環分析用データの産業分類では第3次産業の住宅賃貸業に帰属家賃が含まれている。帰属家賃は、実際には家賃の受払いを伴わないものであるため、これを含む場合と含まない場合の2パターンで労働生産性を作成している。

分配・支出分析

雇用者所得を生み出している産業は何か

■ 住民の生活を支える雇用者所得への寄与が大きい産業は、公務、保健衛生・社会事業、食料品、小売業、運輸・郵便業である。

産業別雇用者所得構成比



出典：環境省「地域経済循環分析用データ」、総務省統計局「国勢調査」より作成

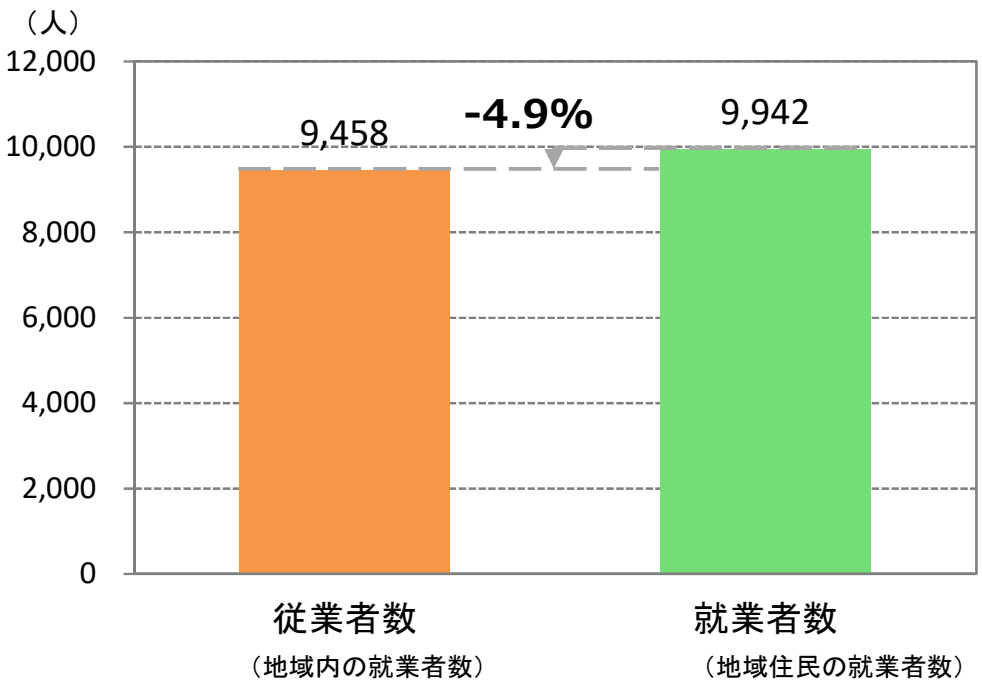
注)GDP統計の不動産業には帰属家賃が含まれており、地域経済循環分析用データの産業分類では第3次産業の住宅賃貸業に帰属家賃が含まれている。帰属家賃は、実際には家賃の受払いを伴わないものであるため、これを含む場合と含まない場合の2パターンで労働生産性を作成している。

就業者の規模

■ 従業者数（地域内の仕事の数）が就業者数（働いている住民の数）の▲4.9%で、域内の住民が域外に働きに出ている傾向。

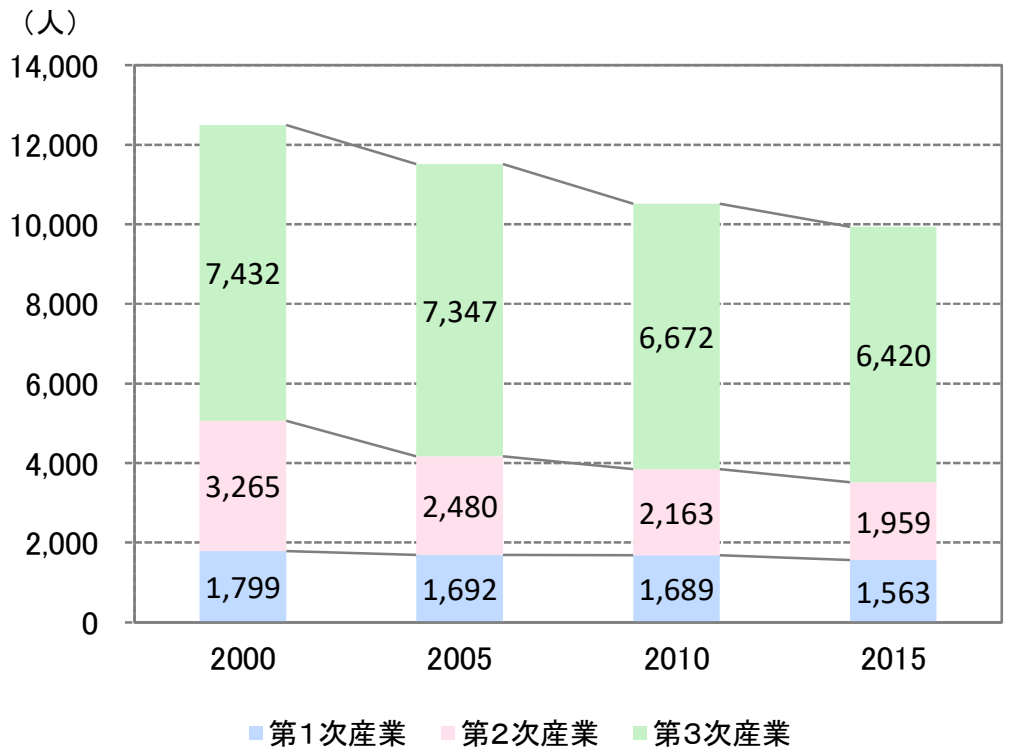
■ 就業者数は全産業で近年減少傾向にある。産業別には第2次産業も第3次産業も減少している。

①就業者数と従業者数(2015年)



注)従業者数は、従業地における就業者の数(域外からの通勤者を含む)である。
　就業者数は、常住地の住民の就業者の数(域外への通勤者を含む)である。
出所：総務省「国勢調査」より作成

②産業別就業者数の推移



出所：総務省「国勢調査」より作成

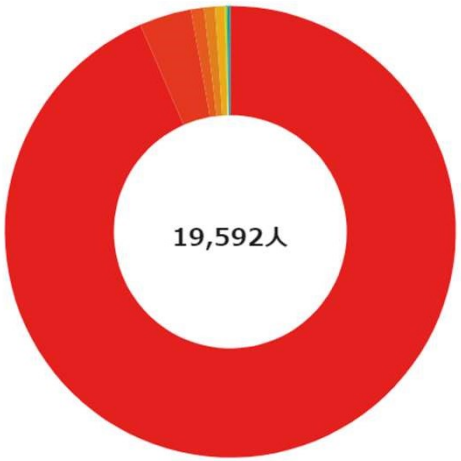
通勤通学人口・地域間流動

- 夜間人口が昼間人口を上回っており、域内の住民が通勤、通学のために域外に出ている状況。
- 域外から域内への流入元地域は、北見市、大空町、津別町等。
- 域内から域外への流出先地域は、おおよそ上位と同様傾向。

2015年　北海道美幌町

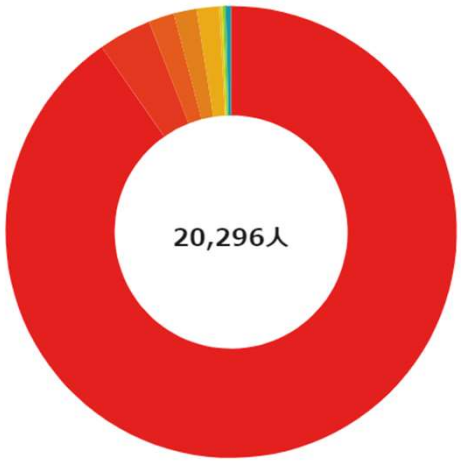
昼間人口：19,592人
夜間人口：20,296人
（昼夜間人口比率：96.53%）

昼間人口
（指定地域内に日中滞在する人の居住地）



- 1位 北海道美幌町 18,310人（93.46%）
- 2位 北海道北見市 733人（3.74%）
- 3位 北海道大空町 181人（0.92%）
- 4位 北海道津別町 154人（0.79%）
- 5位 北海道網走市 136人（0.69%）
- 6位 北海道札幌市 10人（0.05%）
- 7位 北海道小清水町 8人（0.04%）
- 8位 北海道訓子府町 7人（0.04%）
- 9位 北海道遠軽町 7人（0.04%）
- 10位 北海道旭川市 5人（0.03%）
- その他 41人（0.20%）

夜間人口
（指定地域内に居住する人の日中の滞在地）



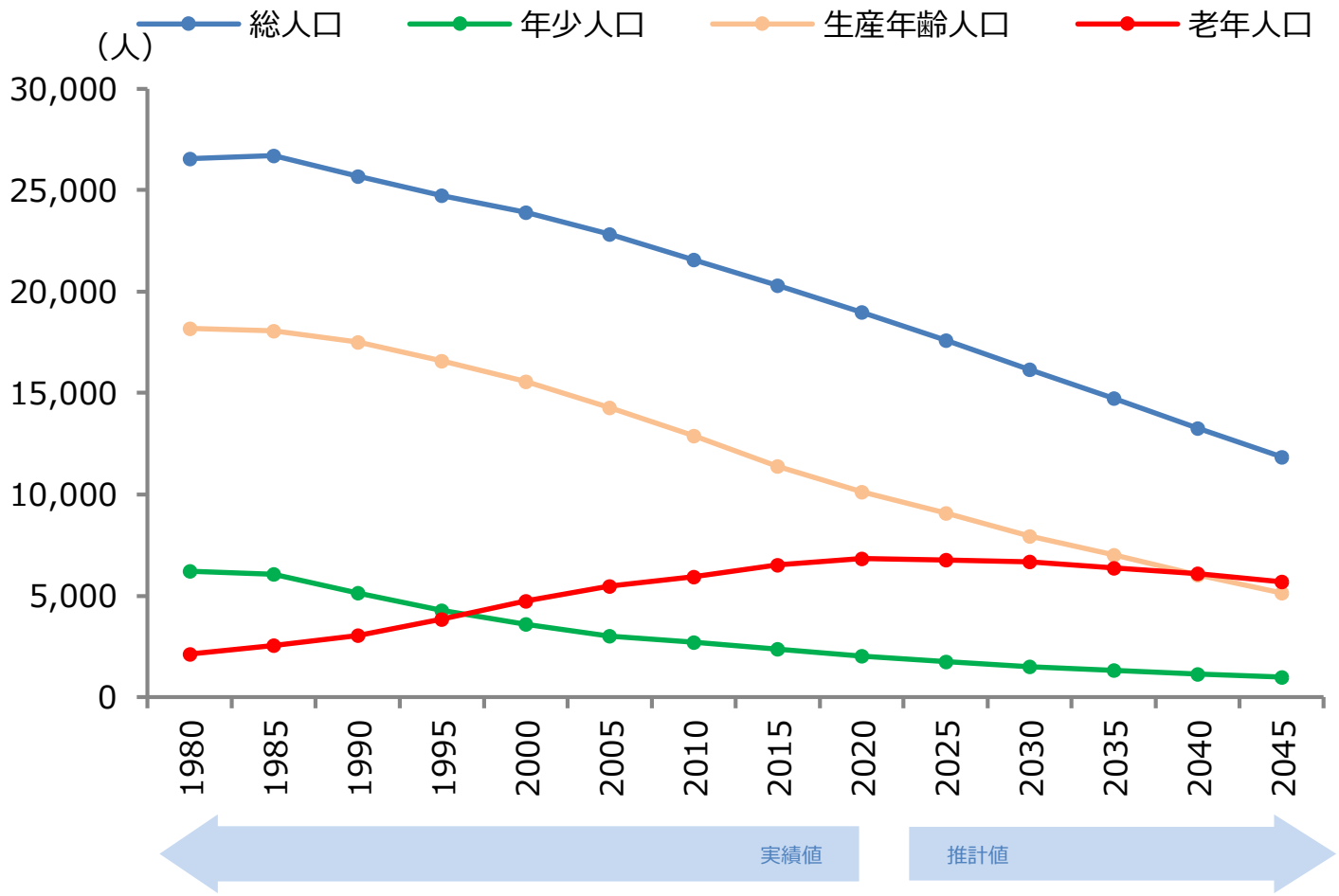
- 1位 北海道美幌町 18,319人（90.26%）
- 2位 北海道北見市 773人（3.81%）
- 3位 北海道大空町 371人（1.83%）
- 4位 北海道津別町 335人（1.65%）
- 5位 北海道網走市 328人（1.62%）
- 6位 北海道斜里町 31人（0.15%）
- 7位 北海道弟子屈町 22人（0.11%）
- 8位 北海道小清水町 21人（0.10%）
- 9位 北海道釧路市 13人（0.06%）
- 10位 北海道札幌市 9人（0.04%）
- その他 74人（0.37%）

注)昼間人口：就業者または通学者が従業・通学している従業地・通学地による人口であり、従業地・通学地集計の結果を用いて算出された人口。
夜間人口：地域に常住している人口である。
昼夜間人口比率：夜間人口100人当たりの昼間人口の割合であり、100を超えているときは通勤・通学人口の流入超過、100を下回っているときは流出超過を示している。
通勤者：自宅以外の場所で就業する者。
通学者：この画面においては、15歳以上の主に通学(各種学校・専修学校を含む)をしている者。
「滞在人口の月別推移」ページで使用している昼間人口等は、出典が株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」であるため、数値が異なる場合がある。

出典：総務省「国勢調査」

市内人口の推移

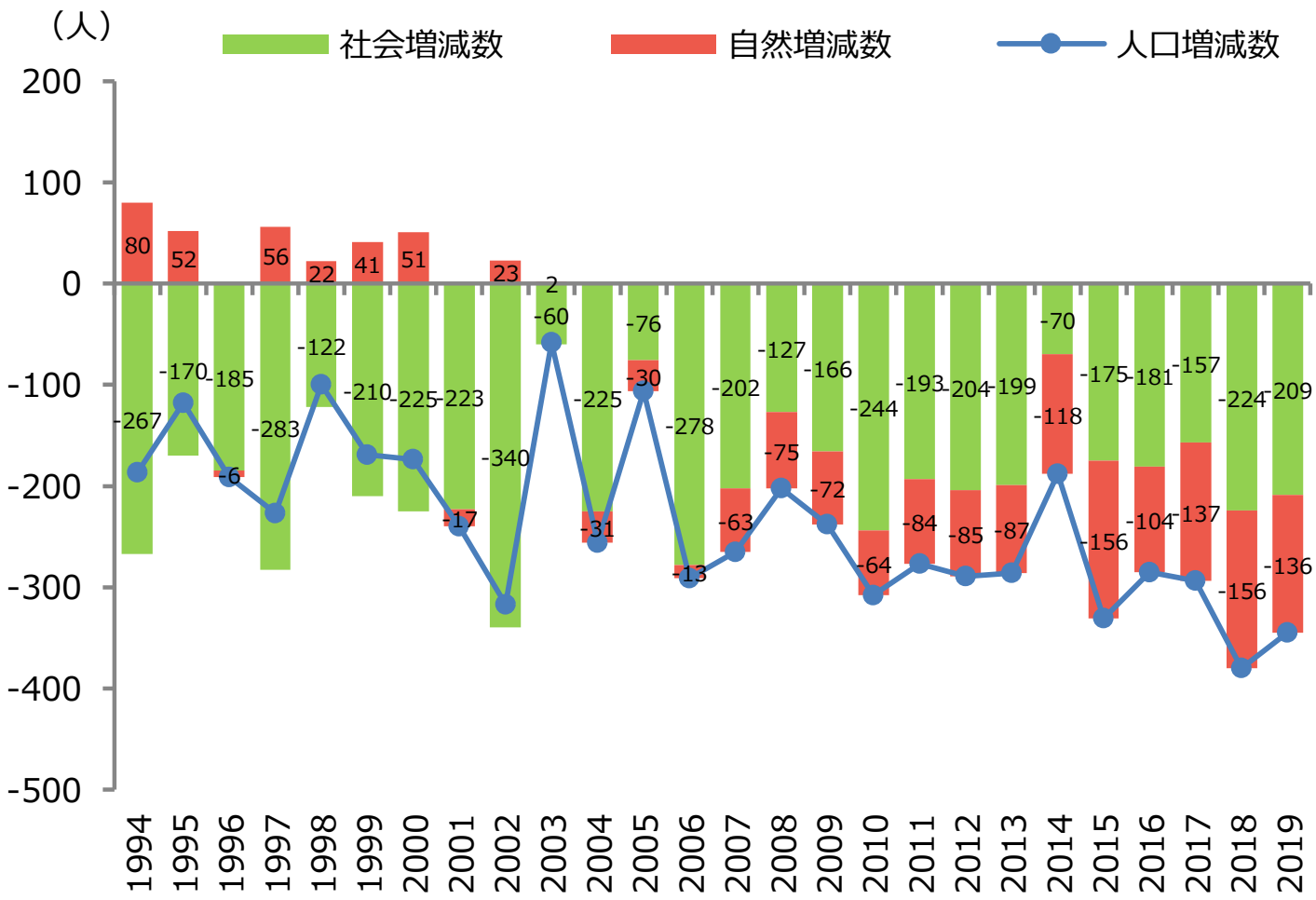
■ 総人口、生産年齢人口、年少人口は減少の一途にある。
■ 老年人口は2020年をピークに、その後は緩やかに減少することが見込まれている。



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
注記： 2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ(平成30年3月公表)に基づく推計値。

過去からの人口増減

■ 社会増減については、減少の一途をたどっているが、減少幅はやや上下変動する傾向にある。
■ 自然増減についても減少の一途をたどり、減少幅は年々拡大してる。

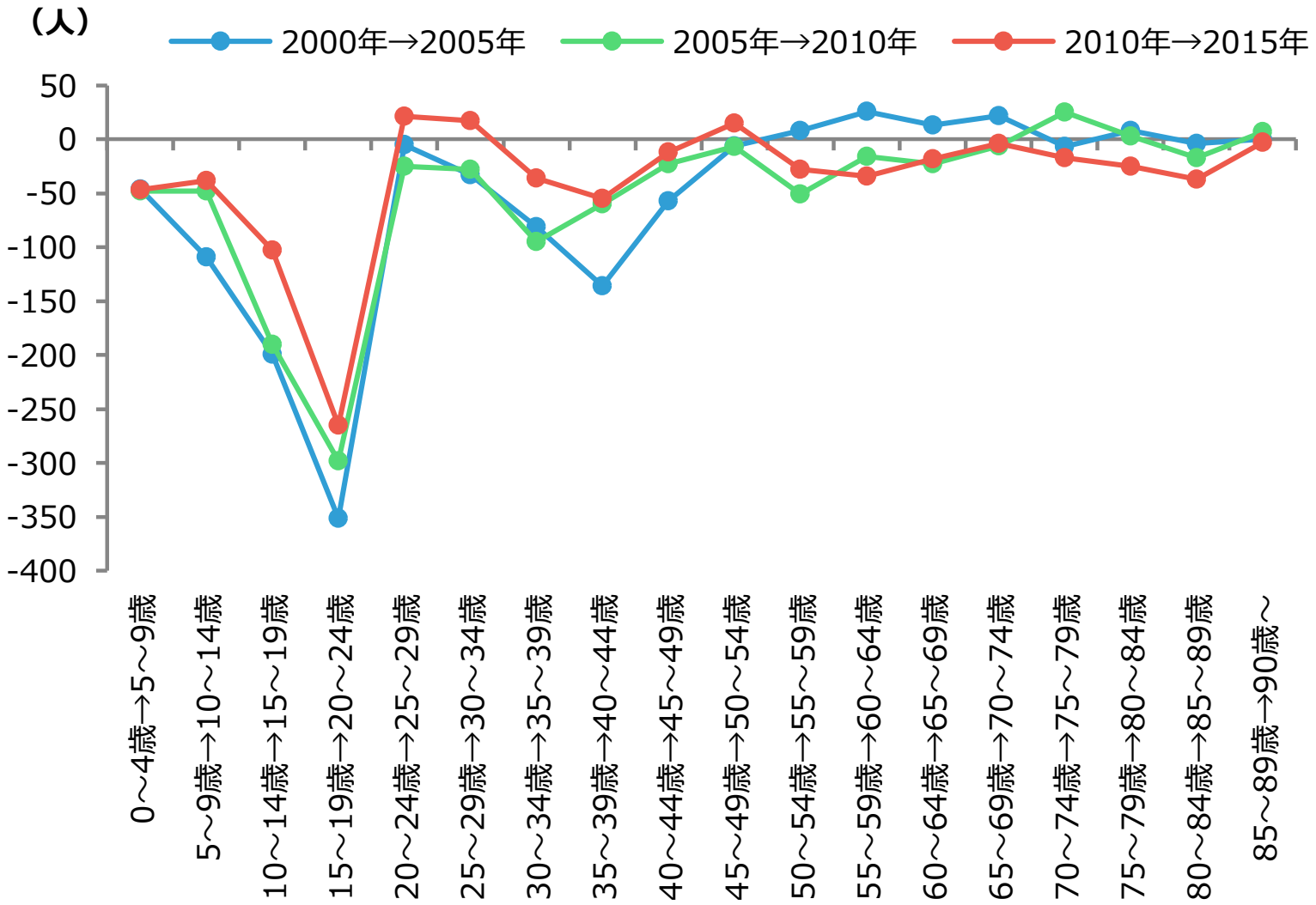


出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工
注記：2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

年齢階級別純移動数の時系列推移

■ 進学・就職に係る15～19歳→20～24歳の年齢層が大幅に流出。

■ 流入する年齢層は年代によって傾向が変動。2000年→2005年は転職・退職後の50代～60代の年齢層が流入し、2010年→2015年は就職・転職等の20代～30代と、40代が流入した。



出典：総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

生産分析（観光）

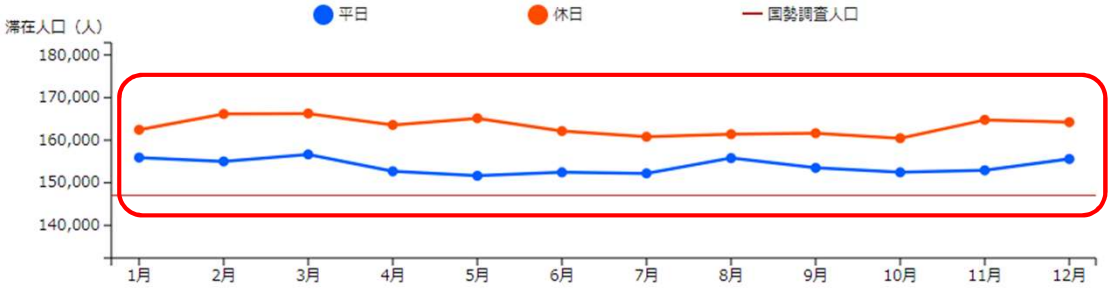
地域の観光の特徴

■ 滞在人口の変動傾向／宿泊者の特性を分析することで、観光を含めた地域の特徴を掴むことができる。

滞在人口の変動傾向

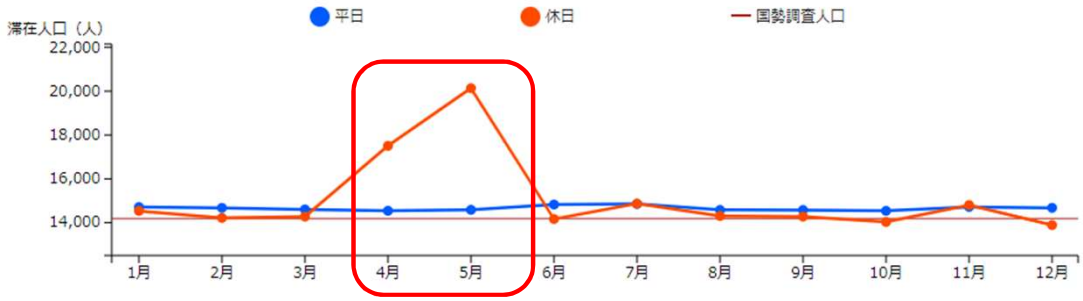
通年型

神奈川県小田原市



季節型／イベント型

佐賀県有田町

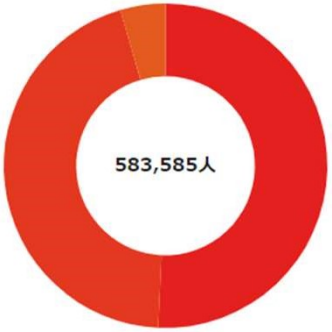


宿泊者の特性

滞在型

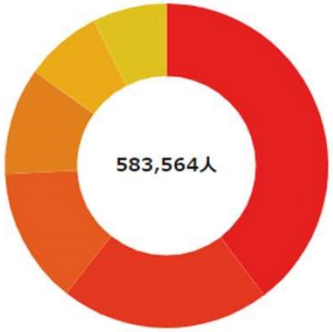
北海道富良野市

性別



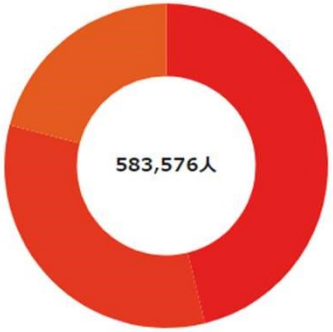
- 1位 大人（男性） 296,025人（50.73%）
- 2位 大人（女性） 261,178人（44.75%）
- 3位 小人 26,382人（4.52%）

参加形態別



- 1位 夫婦、カップル 231,685人（39.70%）
- 2位 男女グループ 122,033人（20.91%）
- 3位 家族 79,064人（13.55%）

宿泊日数別

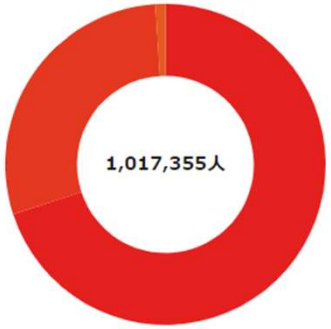


- 1位 4泊以上 269,275人（46.14%）
- 2位 2・3泊 191,926人（32.89%）
- 3位 1泊 122,375人（20.97%）

短期滞在型

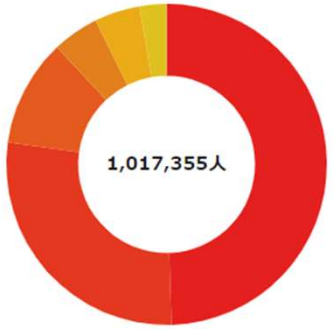
茨城県水戸市

性別



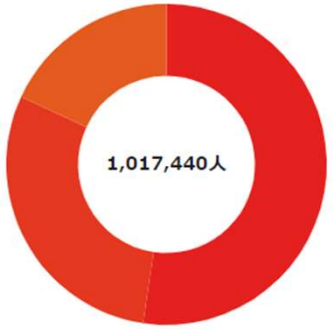
- 1位 大人（男性） 711,789人（69.96%）
- 2位 大人（女性） 295,270人（29.02%）
- 3位 小人 10,296人（1.01%）

参加形態別



- 1位 一人 503,801人（49.52%）
- 2位 夫婦、カップル 281,675人（27.69%）
- 3位 男性グループ 109,974人（10.81%）

宿泊日数別



- 1位 1泊 532,447人（52.33%）
- 2位 2・3泊 301,111人（29.59%）
- 3位 4泊以上 183,882人（18.07%）

市外から来た滞在人口

BEFORE コロナ

滞在人口の地域別構成割合
都道府県 → 市区町村

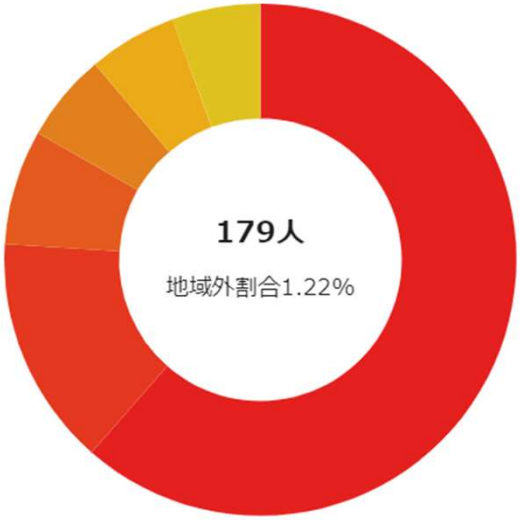
北海道美幌町

2019年5月 休日 14時

総数 総数（15歳以上80歳未満）

滞在人口合計：14,709人（滞在人口率：0.93倍）
（国勢調査人口：15,814人）

滞在人口/都道府県外



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 東京都 110人（61.45%）
- 2位 千葉県 26人（14.53%）
- 3位 神奈川県 13人（7.26%）
- 4位 大阪府 10人（5.59%）
- 5位 愛知県 10人（5.59%）
- 6位 埼玉県 10人（5.59%）

WITH コロナ

滞在人口の地域別構成割合
都道府県 → 市区町村

北海道美幌町

2020年5月 休日 14時

総数 総数（15歳以上80歳未満）

滞在人口合計：14,818人（滞在人口率：0.94倍）
（国勢調査人口：15,814人）

滞在人口/都道府県外

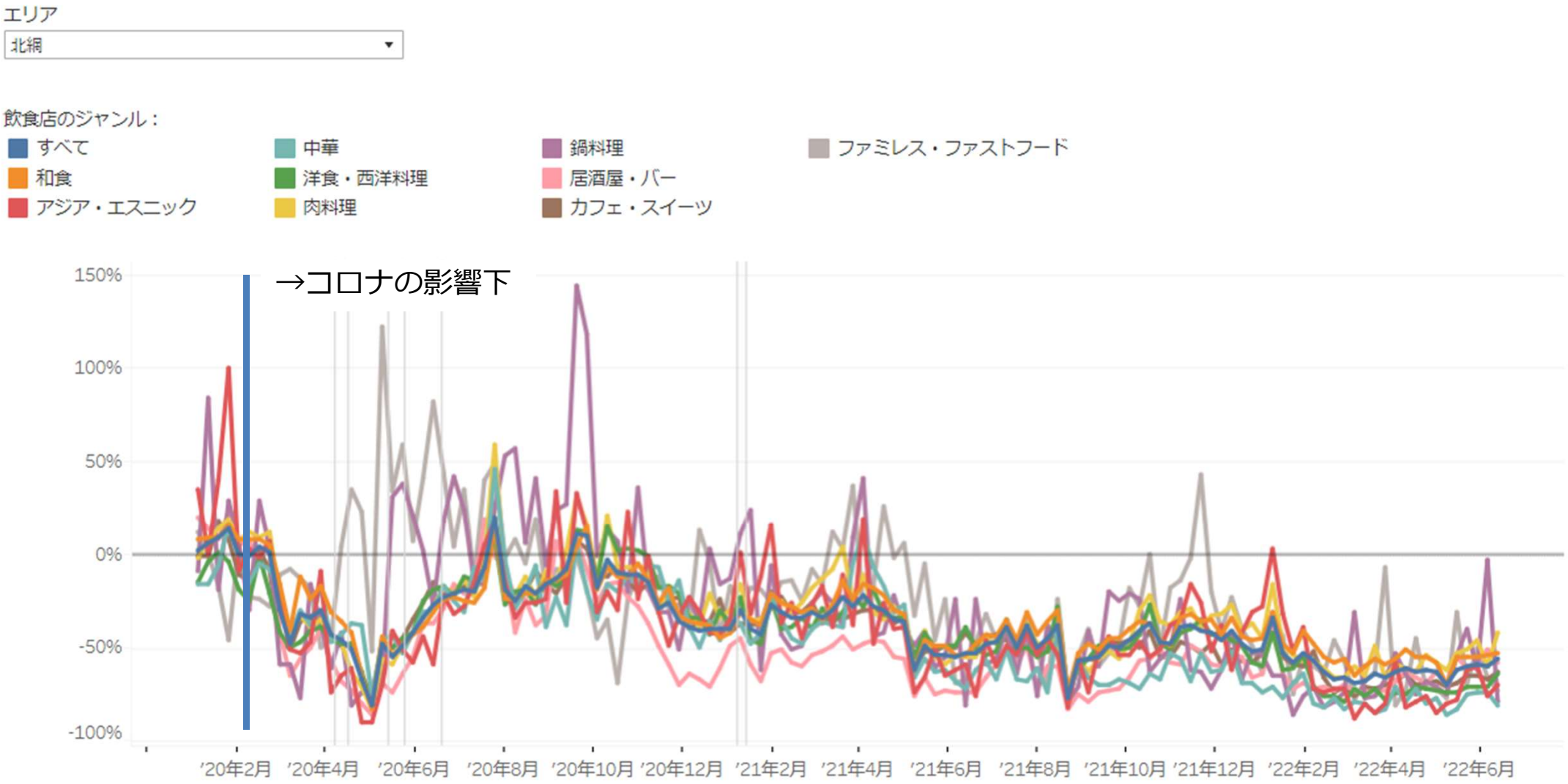
※道内人口100%。データなし。

出典：株式会社ＮＴＴドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」、総務省「平成27年国勢調査」

(注)15歳以上80歳未満

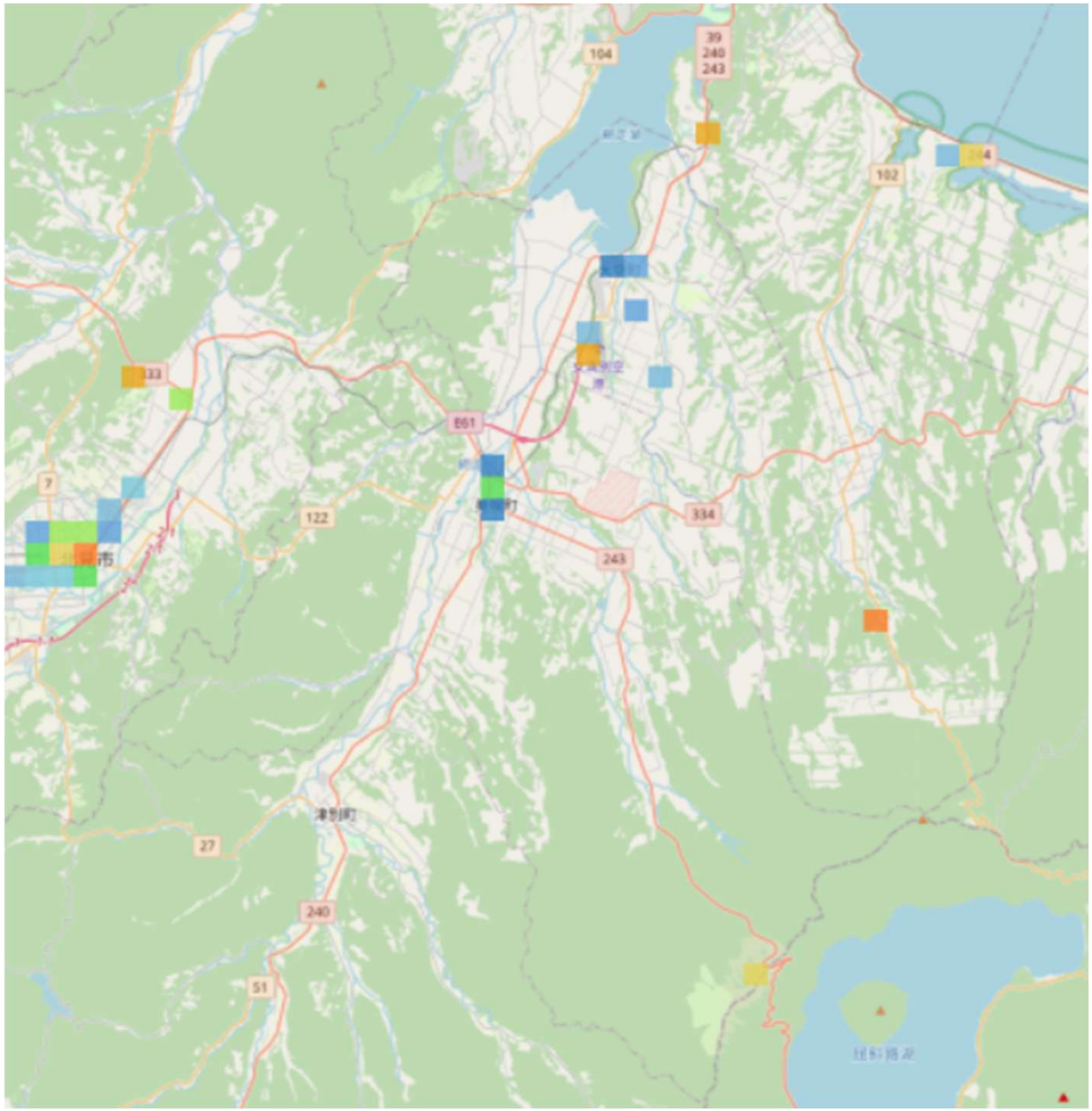
[コロナ影響]2019年同週比飲食店情報の閲覧数(ジャンルごと)

■ 北網エリアの飲食店情報の閲覧数は、2020年３月以降減少し、ファミレス・ファストフード、鍋料理という例外を除いて、前年比減少が多くなっている。

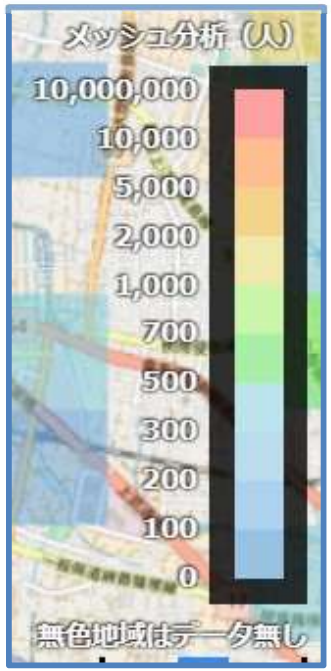


出典：内閣府「V-RESAS」

外国人滞在メッシュ(2017年8月～2018年7月)



１時間以上滞在人数



出展：株式会社ＮＴＴドコモ･株式会社ドコモ･インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」

地域経済循環・推移傾向

地域経済循環図(2015年)再掲

地域経済循環率

83.3%

地域経済循環図

2015年

指定地域：北海道美幌町

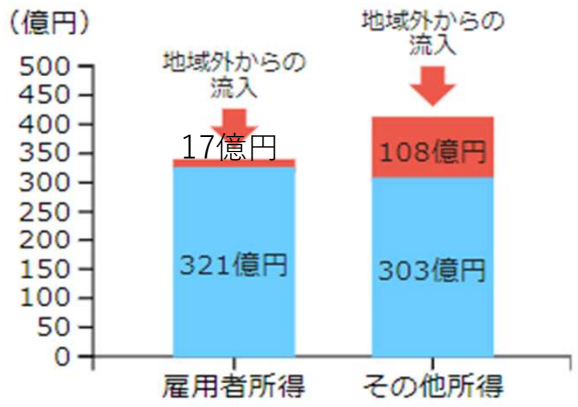
地方交付税交付金	43億円
国庫支出金	8億円
都道府県支出金	7億円
年金	78億円

所得流入

所得への分配
624

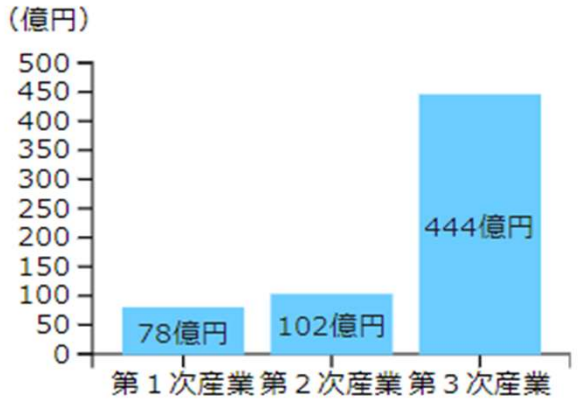
所得からの支出
749

分配（所得）



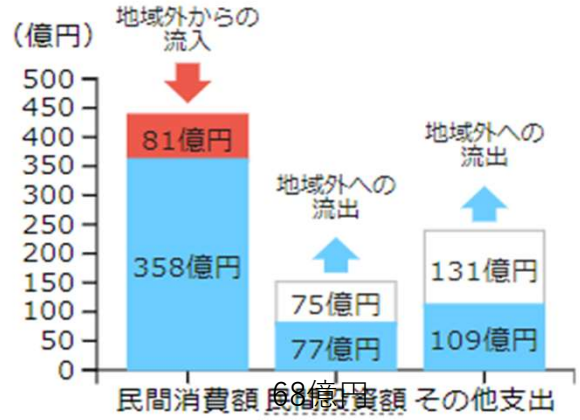
詳細を見る

生産（付加価値額）



詳細を見る

支出



詳細を見る

支出による生産への還流
624

域際収支赤字

※RESASでの算出上、所得流出入は域際収支とバランスするという仮定だが、現実の地域経済ではプラス・マイナスが生じうる点に注

出典：環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」
(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

地域経済循環図(2010年)

地域経済循環率

79.6%

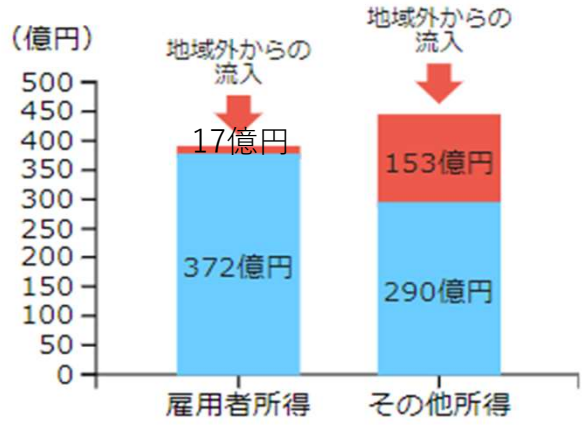
地域経済循環図
2010年

指定地域：北海道美幌町

地方交付税交付金	43億円
国庫支出金	11億円
都道府県支出金	17億円
年金	72億円

所得への分配
662

分配（所得）

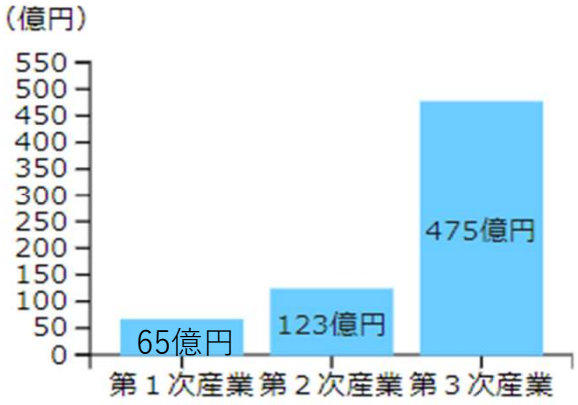


詳細を見る

所得からの支出
832

所得流入

生産（付加価値額）

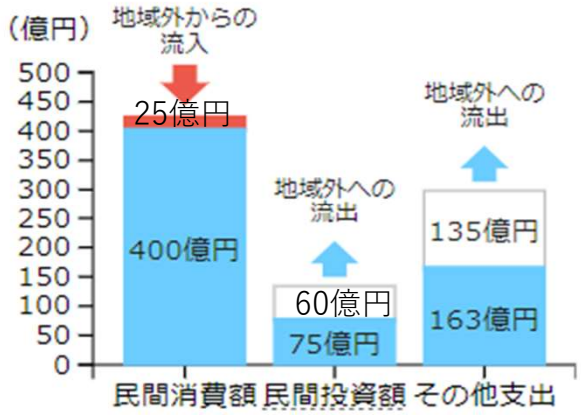


詳細を見る

支出による生産への還流
662

域際収支赤字

支出



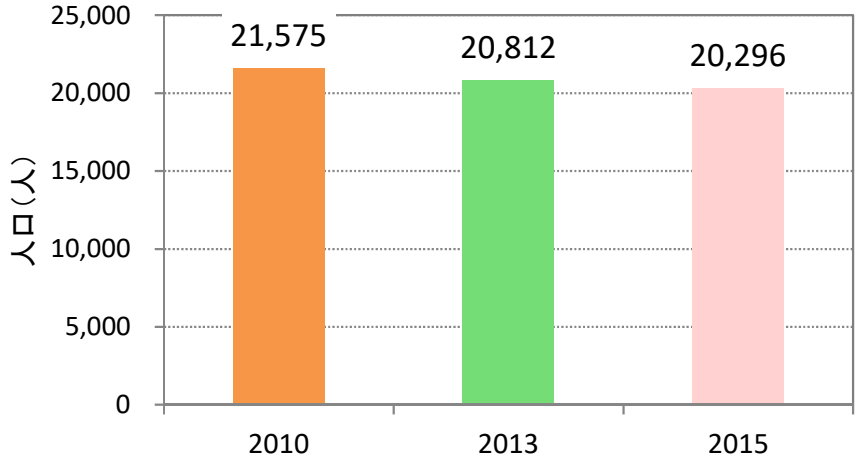
詳細を見る

※RESASでの算出上、所得流出入は域際収支とバランスするという仮定だが、現実の地域経済ではプラス・マイナスが生じうる点に注

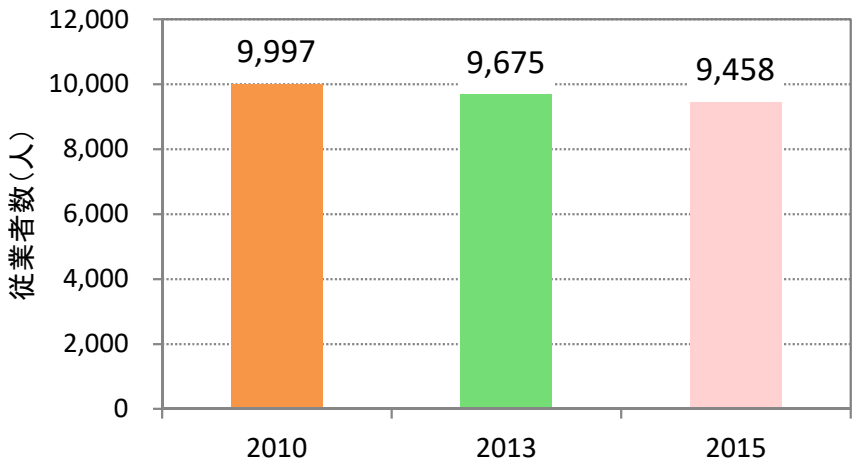
出典：環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」
(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

基礎的な指標の推移(2010→2015年)

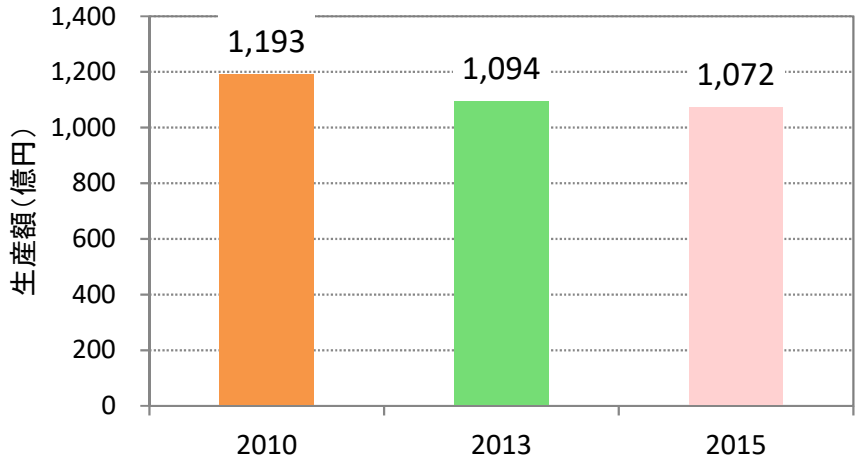
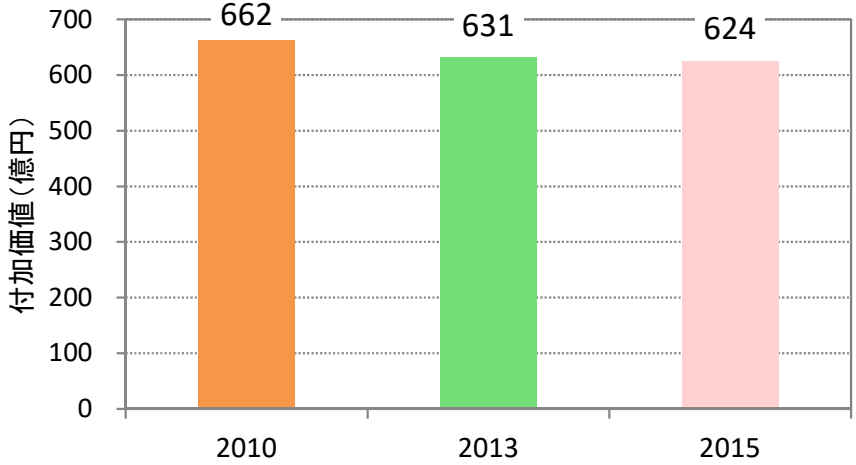
①2010年、2013年、2015年の人口



②2010年、2013年、2015年の従業者数



③2010年、2013年、2015年の生産額



④2010年、2013年、2015年の付加価値